グローバル・カフェ 留学報告イベント(ブルネイ・ダルサラーム大学)を開催しました

2024 年 12 月 3 日、留学報告イベントを実施しました。2024 年 8 月 16 日～9 月 13 日の 4 週間、ブルネイ・ダルサラーム大学(以下、UBD)の「Global Discovery Program」に参加した松尾妃洋音さん、髙橋初咲さん、尾崎弘尚さんが、現地での授業の様子や生活などを紹介しました。日本人学生 11 名、教職員 3 名の計 14 名が参加しました。

松尾さんは、このプログラムに参加したのは、国籍の異なる大学生らと共に学びたい、異文化社会を知りたいという思いによると話しました。現地での日々のスケジュールは事前に決まっており、受けた授業は「マレー語」「イスラム文化」「経済・産業社会」「ブルネイの生物多様性」等、授業と自由時間の割合は、授業：課外活動：自由時間＝２：6：2 程度で、博物館やモスクを訪れる課外活動の時間が多く組み込まれていたと述べました。滞在中は UBD の学生約 25 名がサポート役（バディ）として、授業中だけでなく、自由時間も一緒に行動し、バディと多くの交流ができたとのこと。ブルネイの国教はイスラム教で、店でアルコールを提供することは禁止されているため、コーヒーや紅茶、スイーツを楽しむカフェが主な社交の場となっていて、バディと訪れたカフェは 10 店舗以上だった、現地で提供されたコーヒーやケーキはどれも美味だったと笑顔で話されました。

現地の協定校の大学生バディ約25人との交流がたくさんできた！

髙橋さんは最も印象に残っている授業 3 選に、「マレー語」、「水上集落(Kampong Ayer)ボート探索」、「ジャングルでの植物の観察と郷土料理体験」を挙げました。中でも水上集落を訪れた際に、各家庭に陸地から電気、水道が供給されていて、エアコン、テレビ、Wi-fi などが使用可能、飲料水や生活用水も確保されている等、陸地とほぼ同様の生活ができることには驚いたそうです。また、水上に学

校、病院、警察署、売店、モスクなどが整備されており、通勤や通学、買い物などには水上ボートを使用することが日常とされていたことが印象的だったと話しました。

尾崎さんは、イスラム教やマレーの伝統文化に触れ視野を広げたいと思い、このプログラムに参加したと話しました。授業ではマレー語、ブルネイの銀行の歴史、ブルネイの王族の歴史、イスラム教などについて学び、課外活動では、何百年前のコーラン（イスラム教の教典）や大昔の化石など貴重な文化財を見学したり、念願のモスクを訪れることもでき、ブルネイの魅力が詰まったプログラムであった、と振り返りました。

最終日にはプレゼン発表会があり、尾崎さんは「ブルネイの食文化」と題して、英語で発表を行ったそうです。とても緊張したが、先生やバディたちから温かい言葉を貰えて、自信がついたと語りました。最後に、このプラグラムの参加を検討している方たちへ、あまり後先を考えずに思い切って挑戦してみると、今まで感じた事のない新しい経験ができる、新しい仲間や初めての外国の友達もできて、本当に最高の思い出になった、ぜひ挑戦してみてください。とメッセージを送りました。

バディとの交流